

公益社団法人可児市シルバー人材センター
令和4年度事業実施報告

本年度も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症や、世界情勢の不安定さからなる物価の上昇などにより市民生活に大きな影響を受けた年となりました。しかし、物価高騰や深刻な人手不足に見舞われる中、賃上げは 30 年ぶりの高水準に達し政府と日銀が目指す「物価と賃金の好循環」の実現が期待されています。こうした状況のもと、シルバー人材センターでは活力ある社会を維持していくため、高齢者の社会参加を一層推進し、意欲と能力がある限り働くことができる社会「生涯現役社会」の実現に向けて事業を進めてきました。また、女性の入会促進と更なる活躍に生かしていくことを目的として女性委員会を発足し、目的達成を目指して議論をかさね、女性が参加しやすいイベントや PR を実施しました。

令和4年度は30周年の節目として記念式典を開催し約900名の市民、会員と一緒に祝いすることができました。そうした活動の結果として各事業の実績を以下のとおり報告いたします。

令和4年度の事業実績は以下の通りとなりました。

		(前年比)
1. 受託件数	3,749 件	(97.7%)
2. 契約金額	273,798,045 円	(99.4%)
3. 就業延人員	57,622 人日	(99.4%)
4. 会員数	831 名	(98.1%)

令和4年度の事業実施状況を報告します。

I 事業体制

1. 女性委員会を発足し、女性の就業拡大に向けた取り組みを進めました。
2. 30周年記念式典を好機として一般市民にセンター事業の広報を行いました。
3. 女性委員会が中心となり女性会員の増強、興味ある事業の企画運営を行いました。
4. 企業向けの就業拡大として、派遣事業の充実を図りました。

II 事業実施報告

1. 地域密着型事業

本年度の入会者の平均年齢は約 70 歳となっています。センター会員登録者の平均年齢も 75 歳となり年々高齢化が進んでいるのが現状です。そうした中、今年度は請負による誰もが就業することができるような代行サービスやニッチビジネスの就業創出を強化しました。その結果、集合住宅の水道メーター検針などの初めての就業や、お墓の清掃代行、アパートの清掃、ゴミ出し代行といった少しだけ働く就業の受注が増加しました。それにより、会員各々の就業に対する希望を叶えるための選択肢を広げることができました。

2. 労働者派遣事業

派遣事業は 61 歳から 84 歳までの会員が継続的に各企業に派遣され就業しています。労働人材不足に対応するため女性・高齢者の労働参画が進んでいることから、企業からは様々な問い合わせがあり、件数も増加しています。センターとして高齢者にふさわしい就業であるかを確認し、会員へホームページ等で求人を紹介していますが、就業に繋がりにくいのが現状です。しかし、契約金額は前年対比プラス 3%となり毎年着実に実績を伸ばしています。その結果、以下の通りとなりました。

●受注件数 :30 件 契約金額 :66,369,604 円 就業延人員 :10,204 人日

3. 介護保険事業

新型コロナウイルス感染症の影響で安定的にサービスを提供することに力を注がなければならぬ1年でした。日頃から感染予防対策に努め、利用者にサービスを提供していただいた従事会員の皆様に敬意を表します。事業実績については各事業所からの依頼が増加し、家事援助などの日常生活支援である総合事業が訪問介護の件数を上回り、今後も総合事業が中心とした事業運営が見込まれます。従事会員をいかに増やしていくかが今後の課題です。

以下、結果となります。

●訪問介護受注件数 :17 件 契約金額 :1,696,167 円 就業延人員 : 731 人日

●総合事業受注件数 :33 件 契約金額 :3,995,508 円 就業延人員:1,323 人日

●介護実費受注件数 :12 件 契約金額 : 71,068 円 就業延人員 : 43 人日

4. 福祉有償運送

事業を開始して 10 年が経過し、事業を取り巻く環境は大きく変わってきました。コロナ禍による外出自粛により過去3年間の受注件数は下がり、地域の基幹病院の移転による送迎距離の延伸、要支援・要介護認定の増加にともない問合せが増加するものの移送先での行動支援が難しい等、事業に与える影響は顕著なものとなっています。しかしながら、移送の予約は連日いっぱい多くの市民や事業所から支持をいただいている証です。以下、結果となります。

●受注件数 :733 件 契約金額 :761,265 円 就業延人員 :733 人日

5. 空き家・空き地対策事業

本年度は計画通り、理事・地域班長が中心となり、担当地域の自治会へ PR 及び情報収集を行いました。反応としては自治会によって実情が違い、空き家が増えているのでセンターと連携し対応したい、空き家は少ないので実感が薄いなど様々でした。センターではホームページや SNS を利用して PR に努め、一般の空き家の持ち主、不動産業者等から剪定・除草・物品整理などの依頼が少しずつですが増加しています。

6. 指定管理事業

可児川苑・やすらぎ館とも休館等の開館制限もなく平常通りの開館となりましたが、利用者には感染防止対策を徹底して利用していただきました。講座・サークル活動なども徐々に増え始め、かつての賑やかさが戻りつつあります。館の運営では昨今の物価高と、新電力撤退の影響で光熱水費が急騰し多大な経費負担となってしまいました。これについては、現在、市担当課と解決に向けて協議を進めています。

Ⅲ各委員会での立案の実行

組織的な事業運営を果たすため、各担当部局により分業的な役割を機能させ課題に取り組みました。

- ① 総務委員会 理事会の議案立案やセンター全体の諸問題について協議しました。
- ② 事業委員会 センター事業の拡大発展について協議し事業を運営してきました。
- ③ 安全委員会 発生事故を分析し事故防止対策に繋げ、安全啓発を行いました。
- ④ 広報委員会 設立 30 周年記念誌編集に注力し発刊しました。
- ⑤ 女性委員会 女性の活動を活発化させるため事業の企画運営を行いました。

Ⅳ安全就業

職群班に安全就業マニュアルの再配布、安全パトロールを実施しました。また、受注時に危険と思われる業務については仕事を断り、未然に事故を防ぎました。発生した事故に関しては、シルバーだよりを活用して周知し、同様の事故が起こらないように注意喚起をしました。

Ⅴデジタル社会に向けた取り組み

ホームページや SNS を使った情報発信を継続して行いました。会員向けの就業

情報も随時ホームページに掲載してきましたが、それを見ている会員が少ないように感じます。今後も引き続き多くの会員がホームページ等を見て情報が得られるように充実したコンテンツの作成に取り組んでいきます。また、今年度は会員講師によるパソコン、スマホ勉強会が24回開催され多くの会員が受講し「よく理解できた」「質問しやすかった」など好評を得ることができ、デジタル化に向けての良いきっかけとなりました。

VI ボランティア活動

今年度も、シルバー人材センター理念、「伝えよう地域の文化と伝統、さしのべよう福祉の手と心、守ろう、きれいな水と空気」に基づき前年度を踏襲し実施を致しました。

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。

令和5年5月31日
公益社団法人可児市シルバー人材センター